



ご挨拶
連結決算レポート



財務データ



トピックス



会社及び
株式の状況

DK
VOICE **6**

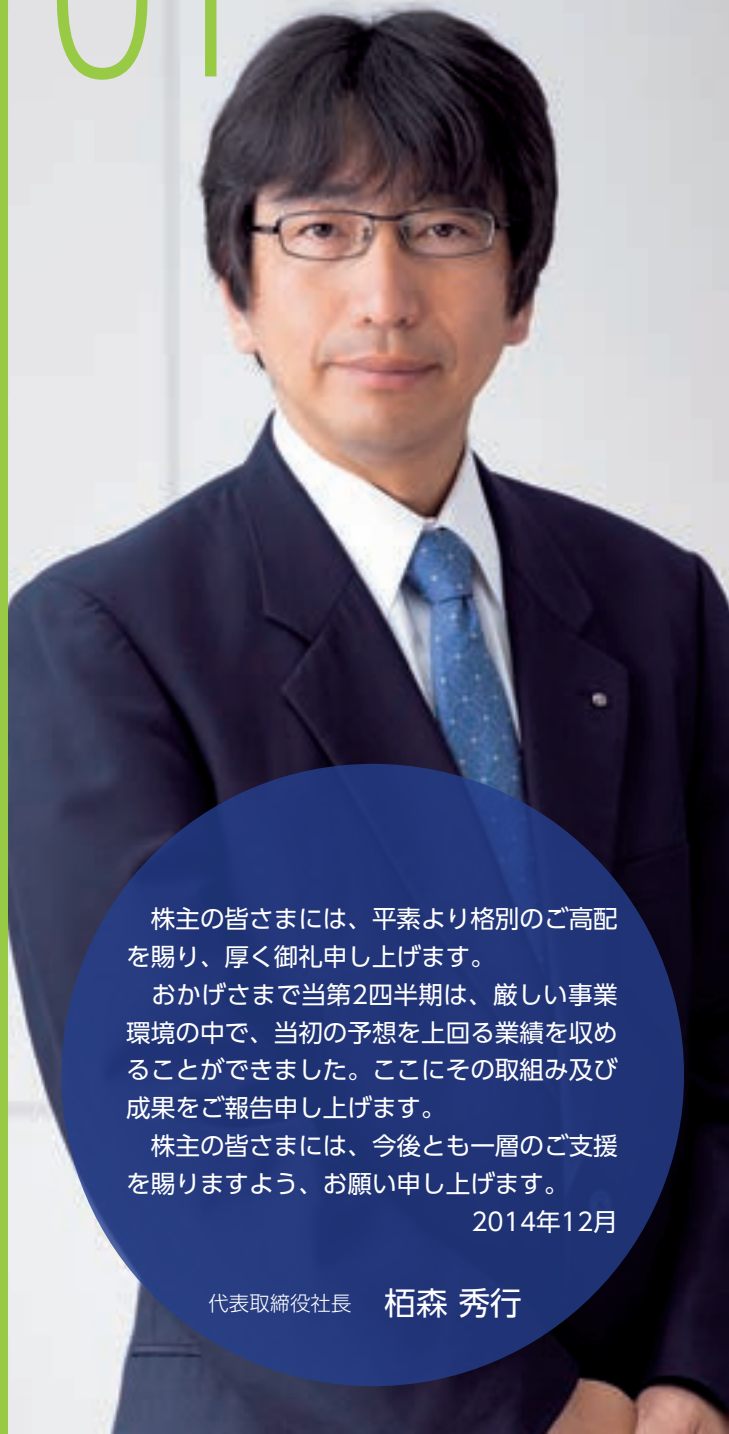
第42期第2四半期 VOL.
株主通信 2014年4月1日
2014年9月30日

DK **ダイコク電機株式会社**

証券コード 6430

01

ご挨拶



株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで当第2四半期は、厳しい事業環境の中で、当初の予想を上回る業績を収めることができました。ここにその取り組み及び成果をご報告申し上げます。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2014年12月

代表取締役社長 栢森 秀行

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安・株高の傾向が継続し、景気は緩やかな回復基調で推移いたしましたが、消費税増税による駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れリスクなど、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、消費税増税による稼動への大きな影響はありませんでしたが、依然として4円パチンコの稼動は微減傾向にあり、顧客であるパチンコホールの経営環境は厳しい状況が続いております。また、2014年9月16日より適用が開始された「パチスロ機の出玉に関わる型式試験プロセスの一部変更」による今後の市場への影響の大きさは不透明な状況であります。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、ファンの遊技性向上を目指した高性能な情報公開機器「BiGMO PREMIUM」と新製品である「BiGMO TypeⅣ」や「IL-X2」「DESTIA」の拡販及びCRユニット「VEGASIA」の販売を推進しました。制御システム事業におきましては、業績の向上を目指し、新規取引先の開拓や新規開発物件の受注活動に取組みました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高278億92百万円(前年同期比7.8%増)、営業利益21億70百万円(同12.7%減)、経常利益22億35百万円(同12.7%減)、四半期純利益14億72百万円(同4.6%減)となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、当第3四半期以降に販売予定としている在庫の増加や、前第4四半期連結会計期間に比べ当第2四半期連結会計期間の売上が大きかったことによる売上債権の増加がありました。また、未払金の決済や納税及び配当金等の支払による現預金の減少、また減価償却費の計上による固定資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ13億84百万円減少の525億45百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度の3月度に比べ当第2四半期の9月度において仕入計上が少なかったことによる買掛金の減少や、研究開発費に関する未払金の減少及び長期借入金の返済などにより、前連結会計年度末に比べ20億55百万円減少の196億13百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、営業成績が好調に推移したことによる利益剰余金が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ6億71百万円増加の329億32百万円となり、自己資本比率は62.7%(前連結会計年度末比2.9ポイント上昇)となりました。

通期の業績見通しにつきましては、2014年5月12日に発表しました連結業績予想からの修正はありません。

●通期予想及び第2四半期連結累計期間における業績進捗率 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期 連結累計期間	27,892	2,170	2,235	1,472
通期予想	55,000	3,000	3,000	2,000
進捗率 (%)	50.7	72.3	74.5	73.6

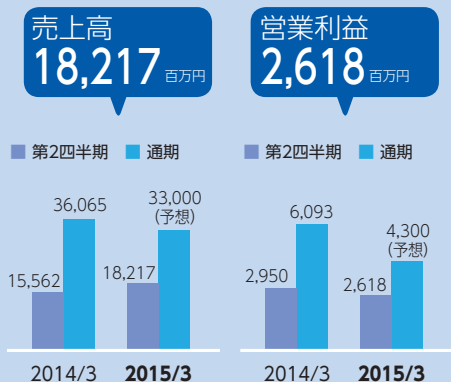
本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。したがって、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

セグメント別の状況

当第2四半期の営業概況

対処すべき課題と通期の見通し

情報システム事業



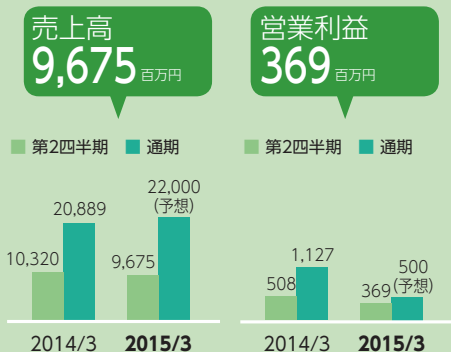
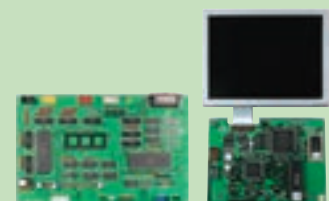
効率的なホール運営を実現できるトータルコンピューティングシステムのメリットを生かし、CRユニット「VEGASIA」と情報公開機器「BiGMO PREMIUM」を中心に、新規オープンや改装を伴う大型店舗への導入が図られ、販売が好調に推移しました。一方で先行投資による研究開発費が増加しました。

この結果、当事業の売上高は182億17百万円(前年同期比17.1%増)、セグメント利益は26億18百万円(同11.3%減)となりました。



「BiGMO PREMIUM」を中心とした台毎データ表示機及びCRユニット「VEGASIA」の拡販と、MIRAIGATEネットワークユーザーとの関係強化に取組むとともに、前期より実施している次世代製品開発への積極投資を継続します。売上高330億円(前期比8.5%減)、セグメント利益43億円(同29.4%減)を計画しております。

制御システム事業



表示ユニットの販売台数は前期を上回りましたが、遊技機メーカーのコスト低減の動きに伴い、リユース品の比率が高まりました。

この結果、当事業の売上高は96億75百万円(前年同期比6.2%減)、セグメント利益は3億69百万円(同27.2%減)となりました。



稼働貢献を目標に、技術力のある企業と積極的に連携し、事業領域を拡げるとともに、3年先の市場環境を見据えた遊技機作りを取組んでまいります。売上高220億円(前期比5.3%増)、セグメント利益5億円(同55.6%減)を計画しております。

03 財務データ

第2四半期連結損益計算書(要旨)

科目	当第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	前第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
売上高	27,892	25,882	56,954
売上原価	19,353	17,703	38,288
売上総利益	8,539	8,179	18,666
延払販売未実現利益戻入	11	12	24
差引売上総利益	8,551	8,191	18,691
販売費及び一般管理費	6,380	5,704	13,353
営業利益	2,170	2,487	5,338
営業外収益	102	105	199
営業外費用	37	33	62
経常利益	2,235	2,559	5,474
特別利益	—	—	31
特別損失	2	45	158
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,233	2,514	5,347
法人税、住民税及び事業税	414	286	1,267
法人税等調整額	345	685	801
少数株主損益調整前四半期(当期)純利益	1,472	1,543	3,278
四半期(当期)純利益	1,472	1,543	3,278

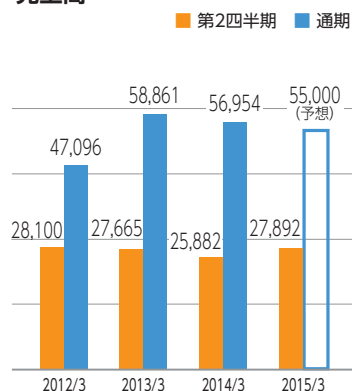
販売費及び一般管理費

前年同期に比べ、6億76百万円増加しておりますが、それは主に次世代の新規製品における研究開発費及び社内システムの運用における業務委託費等の増加があったことによりです。

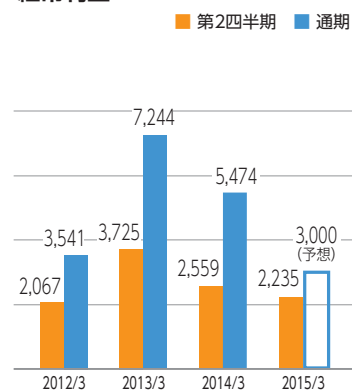
特別損失

前年同期に比べ、43百万円減少しておりますが、それは当期において投資有価証券評価損の計上がなかったこと、前期において不動産の廃棄等に伴う固定資産除却損の計上が大きかったことによりです。

売上高

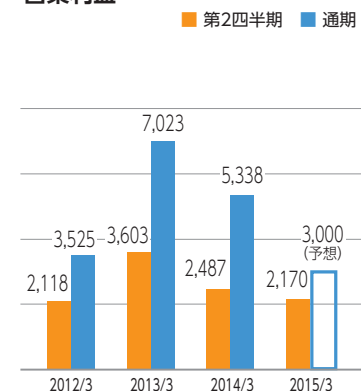


経常利益

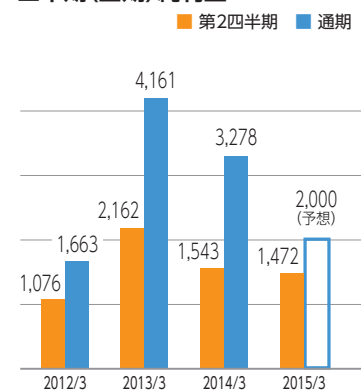


(単位：百万円、単位未満は切捨て)

営業利益



四半期(当期)純利益

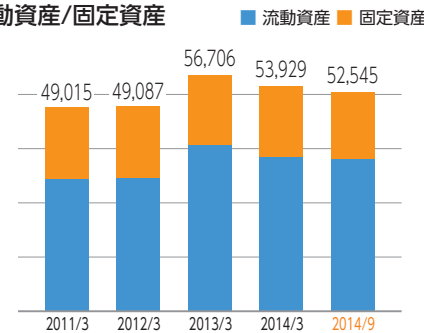


(単位：百万円、単位未満は切捨て)

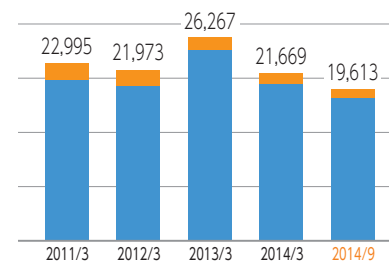
第2四半期連結貸借対照表(要旨)

科目	当第2四半期末 2014年9月30日現在	前第2四半期末 2013年9月30日現在	前期末 2014年3月31日現在
資産の部			
流動資産	36,563	32,443	37,045
固定資産	15,982	16,168	16,884
有形固定資産	9,278	9,280	9,477
無形固定資産	1,608	1,633	1,772
投資その他の資産	5,095	5,255	5,634
資産合計	52,545	48,611	53,929
負債の部			
流動負債	18,430	16,192	20,159
固定負債	1,183	1,463	1,509
負債合計	19,613	17,655	21,669
純資産の部			
株主資本	33,017	30,940	32,380
資本金	674	674	674
資本剰余金	680	680	680
利益剰余金	31,664	29,587	31,027
自己株式	△1	△0	△1
その他の包括利益累計額	△85	15	△120
純資産合計	32,932	30,955	32,260
負債純資産合計	52,545	48,611	53,929

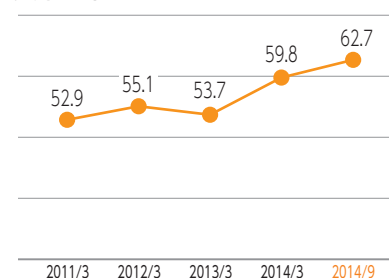
流動資産/固定資産



流動負債/固定負債



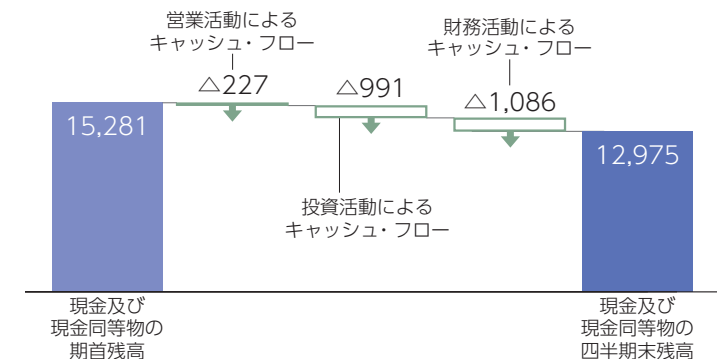
自己資本比率(%)



第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当第2四半期 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	前第2四半期 2013年4月1日から 2013年9月30日まで	前期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△227	△3,017	340
投資活動による キャッシュ・フロー	△991	△864	△1,655
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,086	△1,306	△1,809
現金及び現金同等物に 係る換算差額	—	0	0
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△2,305	△5,187	△3,124
現金及び現金同等物の 期首残高	15,281	18,406	18,406
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	12,975	13,218	15,281

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要



新製品の発表、展示会やセミナーの開催など ダイコク電機の「今」をお伝えします。

【MIRAIGATE2014】展示会 NOW CHANCE TO CHANGE～時代が変わる ホールづくりを変える～ 今やるべき事 それは増客

2014年5月15日の名古屋会場を皮切りに、福岡、東京、大阪の全国4会場、延べ6日間にわたりダイコク電機展示会&セミナーを開催しました。

展示会では、ホール様の収益を上げる提案を3つのエリア「管理エリア」「集客エリア」「環境エリア」に分けて行いました。

管理エリアでは、顔認証システム「CⅡFACE」、機種入替支援ツール「CⅡ-SIS」、地図分析を用いてワンランク上の管理手法を提案し、粗利確保の手段と重要性を理解していただきました。

集客エリアでは、新製品の呼出ランプ「IL-X2」、島端液晶トップランプ「DESTIA」及び台毎液晶端末「BIGMO PREMIUM」などの情報公開機器を用いた他店との差別化と、スマホ運動サービスやサイトセブンアプリを用いた新たな集客ツールを提案し、ホール目線だけでなくファン目線の重要性を理解していただきました。

環境エリアでは、CRユニット「VEGASIA」を用いた他店との差別化と新製品のポータブル営業端末「smartCⅡ・タブレットMS」を用いた業務効率の向上を提案し、ファンにわかりやすい環境、ホールづくりの重要性を理解していただきました。

これらの提案をわかりやすく伝えるためにプレゼンテーションを行うとともに、営業提案をセミナー形式で行いました。また、タッチパネルを搭載した液晶端末「BIGMO-TOUCH」、次世代端末の「HMD(ホールマウントディスプレイ)」、3Dパネルなどの参考出品エリアにもたくさんのお客様が興味を示していました。

すべてのエリアで大盛況となり、最終的に881企業、2,582名のお客様にご来場いただき、昨年同様に非常に活気あふれる展示会となりました。

今後もダイコク電機の総力を結集し、より一層製品開発に注力してまいりますので、どうぞ皆さまご期待ください。



【名証IRエキスポ2014】に出展

2014年7月25日(金)・26日(土)の両日、名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)にて行われた名古屋証券取引所主催の「名証IRエキスポ2014」にブース出展いたしました。今回で連続11回目の出展となるこのイベントは今年も盛況で、2日間で8,000名もの来場者がありました。

当社ブースでは説明会形式で個人投資家の方々に当社の説明をさせていただきました。今年も約250名の皆さまに当社についての説明を聞いていただき、株主や個人投資家の皆さまとのコミュニケーションの場として大変有意義な出展となりました。当日は貴重なご意見、ご協力ありがとうございました。

今後も継続的なIR活動により、当社の知名度・認知度の向上に努力してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



【名証IRエキスポ2014】

【MIRAIGATE2014】DK-SISセミナー NOW この難局を打開せよ！業績向上の礎を構築する手法とは

今回のセミナーは、大きく3つの内容を取り上げて提案を行いました。

1つ目は、貸し玉料金の引き上げと、都道府県ごとに取組み方が異なる損益分岐の変更における注意点を解説しました。投資金額に対する貸し玉(コイン)量を減らす運用は、ファンにデメリットを感じさせる可能性があるため、いかに1玉(枚)あたりの価値が向上しているかを浸透させる必要があると伝えました。損益分岐の変更も、安易な取組みはファンへの過度な負担につながるため、遊技機の活用を一から見直した上で実施すべきと提案しました。

2つ目は、4円パチンコの低迷を抑制させる「守りの戦略」として、確率変動中や時間短縮中に目減りする玉の基準を見極める管理について提案しました。各機種の特徴と注意点を説明し、ファンの不満を取り除くために徹底すべきと伝えました。

3つ目は、業績復調のパチスロにおける「攻めの戦略」として、「パチスロ版PPM管理」について提案しました。機種ごとに役割を明確に分担させ、役割どりの運用ができていないかをチェックして効率的な遊技機の活用を実践すべきと伝えました。また、顔認証システム「CⅡFACE」を併用することで、より早く遊技機の将来性を見極めることができる優位性についても提案しております。

今回も全会場で定員数を大きく上回り、受講者があふれかえる状況での開催となり、ダイコク電機及びDK-SISに対する期待感がひしひしと伝わってきました。今後もその期待を上回るように様々な角度からの提案を行ってまいります。



【DK-SIS白書2013】発刊

このたび当社は創刊から数えて11冊目となる「DK-SIS白書2013」を発刊いたしました。本書は、市場シェアの28%にあたる131万台分もの膨大なホールの営業データを日々集計・分析し、1年分の情報を集約したものです。

本書では、減少が続くパチンコ業界の総粗利に関して、その根本はファンの不満による離反であると解説し、継続的に過度な負担を強いている状況の改善なくして、業況の好転は考えにくいと注意喚起しております。

市場の動きとしては、2012年の後半から頭打ち感のあった20円パチスロの業績が下落に転じています。これは出玉性能が高い遊技機への依存度が増加したことで投資ペースが上昇し、ファンがイメージする投資ペースから乖離してきたためと考えております。また、2013年は消費税増税への準備として様々な取組みが始まり、貸し玉料金や遊技料金についてなど、営業形態の方向性を決める重要な期間となりました。

今後もファンの期待を裏切らない遊技環境を提供する重要性を伝えるとともに、市場の変化に対応するためのツールとして、DK-SISならびに本書がホール経営企業の皆さまの一助となることを願っております。



【DK-SIS白書2013】

会社概要

商号	ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD.
創業	1964年12月
設立	1973年 7月
資本金	6億7千4百万円 (発行済株式総数14,783,900株)
本社	名古屋市中村区那古野一丁目43番5号
従業員数	(単独)446名 (連結)613名
事業内容	パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売
決算期	3月31日
事業所	4事業所、4支店、13営業所
関係会社	元気株式会社、DAXEL株式会社

役員

代表取締役会長	栢 森 雅 勝
代表取締役社長	栢 森 秀 行
代表取締役専務	栢 森 健
常務取締役	根 本 弘
常務取締役	佐 藤 信 悟
取締役	大 上 誠 一 郎
取締役	栢 森 啓
取締役	國 保 徳 丸
取締役	足 立 芳 寛
常勤監査役	伊 東 幹 夫
監査役	村 橋 泰 志
監査役	田 島 和 憲
監査役	知 念 良 博

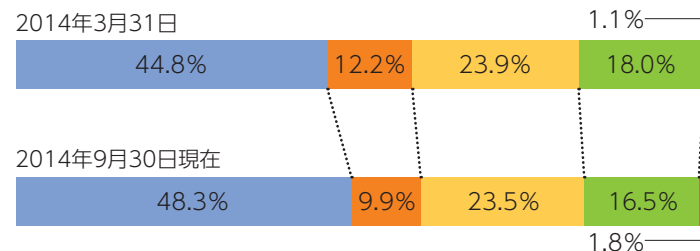
(注) 1.取締役 國保徳丸氏、足立芳寛氏は社外取締役であります。
2.監査役 村橋泰志氏、田島和憲氏、知念良博氏は社外監査役であります。

株式の状況

発行可能株式総数	66,747,000 株
発行済株式総数	14,783,900 株
株主数	3,928 名

所有者別株式分布状況

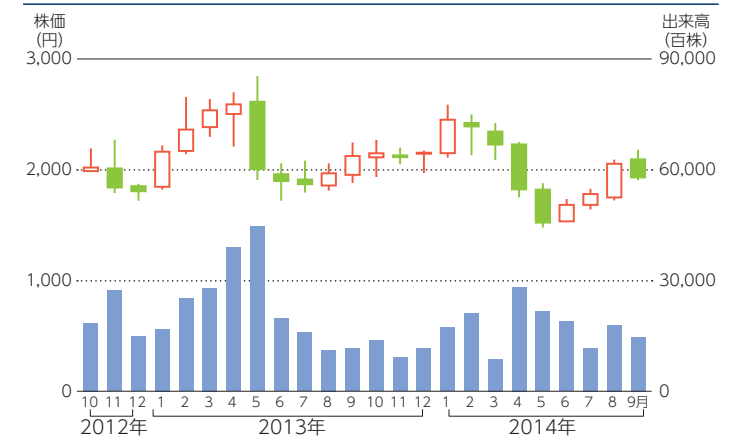
	2014年9月30日現在		2014年3月31日	
	株式数(株)	株主数(名)	株式数(株)	株主数(名)
■ 個人・その他	7,145,147	3,681	6,622,927	2,924
■ 金融機関	1,459,600	23	1,806,200	22
■ その他国内法人	3,467,900	55	3,536,700	52
■ 外国人	2,437,650	133	2,662,541	134
■ 証券会社	272,975	35	154,954	29
■ 自己名義株式	628	1	578	1
合計	14,783,900	3,928	14,783,900	3,162



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
栢森 健	1,772,200	11.98
栢森 雅勝	1,518,650	10.27
栢森 秀行	961,000	6.50
栢森 美智子	926,000	6.26
栢森 寿恵	887,000	5.99
公益財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 新治	443,450	2.99
栢森 和代	311,000	2.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	285,600	1.93
ダイコク電機従業員持株会	235,278	1.59

株価及び出来高の推移



■ 電子メールによる当社IR情報の配信

当社は、投資家の皆さまへ電子メールによるIR情報配信サービスを提供しております。ご登録いただいた皆さまには当社ホームページ (<http://www.daikoku.co.jp>) に新しい情報が掲載されたことのお知らせします。IR情報配信サービスをご希望の方は、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信」ボタンから、簡単にご登録いただけます(無料)。

www.daikoku.co.jp/ir

ダイコク電機 IR

検索

IRメール配信

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日

定時株主総会 6月下旬

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、
あらかじめ公告いたします。

一単元の株式数 100株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒460-8685
名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063
電話照会先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
本店及び全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告のホームページアドレス <http://www.daikoku.co.jp>

配当金受取方法等について

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

* 確定申告をなされる株主さまは、大切に保管ください。

株主さまのご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内

株券電子化実施にともない、株主さまのご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部又は一部をほふりが指定した文字又はカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主さまにご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主さまのご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株券電子化後の配当金受取方法のお取扱い

株券電子化により、従来の配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主さまの保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能となりました。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問い合わせください。